

保育部会

(和泉部会長)

それでは保育部会を開会したいと思います。活発に意見を出していただいて、濃密な時間になれば幸いです。よろしくお願いいたします。それでは事務局から 13 事業等について説明をお願いします。

(事務局)

「保育部会資料 子育て支援事業の現状について」に基づき説明

(和泉部会長)

コンシェルジュを 2 名今年は配置しましたが、利用状況などいかがでしたか。

(事務局)

今年度より市役所OBが 2 名コンシェルジュをしているのですが、12 月末現在で 395 件の相談がありました。育休や里帰り、主に保育園に関する相談が多いのですが、その他に幼稚園や一時保育、マイ保育園についての相談とあわせて苦情も寄せられています。希望の保育園に入れないとのご意見もあります。市としては野々市内で待機児童がないとみておりますが、利用者の方は家の近くの園を希望しているという市民の方の実際の声を伺っております。

(和泉部会長)

その他についてはいかがでしょうか。

(委員)

赤ちゃん検診の際にも保育園入園の苦情を聞くが、兄弟で別の保育園になると 2 つの保育園に迎えにいかなくてはいけない、そういったことになる大変なので、何か工夫できる点があればいいのですが。

(事務局)

兄弟は入園に関する優先度が高くなってます。兄弟は一緒の園にということを基本的な考え方としております。

(委員)

下の子が途中入園をしてくる場合でも、上の子と同じ園になるように、10 月の入園申込の際に全ての利用について調整を行っているので、大体ご兄弟は同じ園になられていると感じています。

(和泉部会長)

その他はいかがですか。

(委員)

ファミリーサポートセンター事業を受け入れる方は何名いるのですか。

(事務局)

協力会員は 4 月 1 日で 20 名、依頼会員が 175 名でした。

(委員)

協力会員をもっと募集したいと思っているのですが、子育てから離れた世代の方がもう少し手をさしのべていただければ。たとえば、シルバーに登録していただいている方にファミサポにも登録していただくなど、いろいろな方法があるのではないのでしょうか。

(和泉部長)

いくつか整理しなくてはならないことがありますね。様々な問題を調整して、より使いやすく、役に立つものになっていくべきですが、どのようなものなのでしょうか。

(事務局)

ファミサポについて、今後も現状把握をして、課題の確認をしていきます。

(和泉部長)

他にはいかがですか。時間外保育について現場はどうでしょうか。

(委員)

育児休業あけや途中入園者が増えることにより延長保育の利用者は増えます。

(事務局)

現場では、延長保育者を希望する方が増えるとシフトの種類や回数が増えるため職員体制が大変になってくるということでもあります。

(委員)

保育士はシフトで動いているが、研修や委員会に参加できる人数が限られてくるので保育士の学ぶ機会も超勤をいただいて長時間保育をしていた頃に比べると質の向上という点においては課題があると思われます。

(和泉部長)

新制度に移れば保育士の研修も保障しなくてはならないことになります。

(委員)

市の登録保育士はどれくらいいらっしゃいますか。

(事務局)

市のホームページや広報を見て来られた方はすぐ面接をしております。登録までには至っておりません。県社協の福祉人材センター等の求人でも1名ご応募があったのみです。

(委員)

市で人材をプールしてあれば研修の時など派遣していただければと思ったのですが。

(事務局)

保育士の最低基準配置が法定されていますので、市としても採用したいのですが、間に合わないで派遣で2名来ていただいております。人材派遣会社にも保育士がおらず、困窮していたところ、たまたま求人の応募があったため今年度はなんとかもっていた状況です。

(和泉部長)

公立がそのような状況というのは理解できますし、法人の方はそれ以上に御苦労もあると思います。潜在保育士が石川にも1万人以上いると思うのですが、この方々が保育の世界

に戻ってきてくれるかというとは必ずしもそうではない。厳しい世界ですので、給料ばかりでもないところもあります、職員間が力を合わせて何かを作り上げていく覚悟がないと続けていけないということがありますので。人口増の激しい市ですから保育士の確保に力を入れないといけないと思います。幼稚園はいかがですか。

(委員)

来る園児数が少なく、預かり保育もしていますけれど、5時6時までのご利用ですので、そこまで大変ではないです。預かり保育は専任の教師がいますので日常の教師が預かりをしているということもないです。こんなにもサポートの必要な方達がいるのが現状を考えると、もっと幼稚園においでよと思います。ただ、幼稚園は預かりの時間もそこまで長くはないですし、0、1歳の受け入れもしていませんので、そこまで切実な状況はないです。

(和泉部長)

人手不足の中、真剣に野々市の保育を考えていかなければならないと思います。既にお辞めになられた60歳以上の方にも是非野々市の保育のために出てきていただくようお願いしたいです。

(委員)

学生からは、幼稚園教諭よりも公務員として保育士になりたいという声が聞かれます。

(和泉部長)

保育士はいったん離職すると別の職種で働きたいという方も多いです。潜在保育士を発掘し、市は法人にも保育士をまわせるようにしていただきたいです。学童の職員不足もただならぬものですし、どちらも大変なものがありますが。

(事務局)

保育士の問題ということであと一点、市の障害児委員会の数を増やします。面接、巡回を年2回とし、加配保育士を増やします。昨年度は14名、今回は25名の児童を審議会にかけております。今後は審議会の回数を2回とし、転入や継続審議の方に適切な対応をしていきます。ただし、この対応により加配保育士が増えるため保育士が足りないということにもなります。学校もそのような状況ですし、グリーゾーンの方について臨床心理士の先生の巡回を増やし、相談できる場を提供できればと思っております。

(和泉部長)

最近はカラフルゾーンとも言われておりますが、そこにもまた保育士の充当が問題になってきます。

(委員)

人材確保は支援事業計画にはどのようなふうにもりこまれているのですか。

(事務局)

事業計画は国の方針にそって量の見込み確保を策定しているので、事業計画には盛り込まれていませんが、市は適切な人的確保をし、またご意見に対して予算要求をしていきたいと思っております。

(委員)

発達障害児について3歳未満の子どもには保健センターではどのようなご案内をしているのでしょうか。

(委員)

療育機関が市にないので、県の療育センターや発達相談センターや医療機関を照会しています。個別の相談で対応しながら様子を見ています。臨床発達心理士の相談を行っているので、担当の保育士さんにも一緒に聞いてもらい保育園に持って帰り日々の生活を少し変えていただくということも最近取り組んでいますので、また情報交換が出来たらと思っています。

(和泉部長)

幼いころは、ゆっくりと成長しているのか、それとも障害があるのかの見分けがつきにくいものです。あせらずにゆっくりと成長を見つめながら、ということになると保育園の力はすごいです。ですので、そこが伝わって専門的な目とうまくコラボレーションしていければいいと思います。野々市はいい形でそれができればいいですね。

その他にはいかがですか。

(委員)

赤ちゃん訪問の実績が少ないのではないですか。

(委員)

1月末の実績でするので年間にするのだいたい量の見込みのとおりとなります。

赤ちゃん訪問事業は2カ月を目途に訪問しているが90%近くは受け入れていただけています。残りの10%は入院中や里帰り中などの方で、4か月検診の時に気を付けてみるようにしています。また、養育支援事業については少ない方がいいと思っております。虐待やヘルパーが必要な家庭の数です。

(委員)

保育園の定員について途中から入りたい方の数は、また病児保育について増設を考えていますか。

(事務局)

定員について、4月1日から更に増えて途中入園を含めると2,160名程度の申込みを既に確保しております。また、これからも転入等で申込がありますので、そこで中央保育園の開園といたしました。ご希望の園には入れなかったという方もいますが、野々市の中では待機児童はございません。続きまして、病後児については、現在は横宮地内にポニーポッシュ1箇所のみですので、本来ならば増設を考えたいという思いはあります。

(委員)

保育士問題が切実な環境ですので、シフトを細かくするなど何か工夫をすることにより利用しやすくなるのかとも思いました。リタイヤした方を引っ張り出すような方策を考えて努力してください。

(委員)

以前、保育園の協力に行ったがとても大変でした。0歳児の保育は本当に大変と実感しています。保育士不足の話もとても大変だと思いました。ファミサポも、近所の子を見るのはいいが、例えば朝7時からよそのお子さんを見るのは大変だと思います。

(委員)

A君のことはOKです、というような柔らかい考えで繋いでいけたらと思いますので、大事なお意見だと思います。

(委員)

専属や時間制限などいろいろな登録の仕方があればいいと思います。

(委員)

ファミサポには事前にマッチングがあります。是非気軽にご利用いただければと思います。

(和泉部長)

ひとつひとつの貴重なご意見をありがとうございました。これからも皆さんで頑張りをしよう。本日はどうもありがとうございました。

これで第2回目の子ども・子育て会議を終わります。

以上